

2022 年度 第 4 回 CSR 委員会 議事録

- 【日 時】 2023 年 1 月 20 日 (火) 13:30 ~ 17:00
【会 場】 ハイブリッド会議 (日本代協 事務局会議室、Zoom)
【出席者】 大城委員長

北海道	池田	北東北	近藤	南東北	酒井	上信越	鈴木
東関東	河合	南関東	吉野	東京	小野	東海	生川
北陸	三上	近畿	森井	阪神	欠席	東中国	山田
西中国	田坂	四国	杉友	九州北	三浦	九州南	植村

- 【オブザーブ】 横山副会長
【事務局】 大谷部長 【司会】 副委員長 【議事録】 事務局

【委員会の要旨 (確認、決定したこと)】

1. 次年度に向けて、ぼうさい探検隊の早期アプローチを開始する。
2. 第 3 回 CSR 委員会の日程を神奈川で開催される防災国体の翌日に変更する。
(防災国体への参加は任意)
3. 出前授業のツール、公開講座のテーマを direct で連携し、4 月の委員会で集約する。

議 事

. 挨拶

1. 大城委員長挨拶
 - ・本日も忙しい中 CSR 委員会に参加いただき感謝申し上げます。
 - ・全国的に気温が下がり、来週以降寒波が襲来するとのことであるが、沖縄では車のエアコンをかけて営業していた。寒暖差激しいので体調には十分留意していただきたい。
 - ・ぼうさい探検隊について、全都道府県代協が目標を達成することができたのは委員の皆さんが水面下で丁寧な推進をしていただいた結果ではないだろうか。協力に感謝します。
 - ・10 月兵庫で開催された防災国体では兵庫県代協がブースを出展し次年度の防災探検隊予約を 30 件受けており、改めてこのコンテンツが必要なものと認識しており、一人の百歩ではなく百人の一步で周りを巻き込んだ CSR 活動を行っていくために本日論議したいと思う。
 - ・活動チェックシートでも前回委員会以降、独自の取り組みをしていただいていることを確認しており、必ずこの取り組みは生活者にも必要なものであるので引き続き協力願いたい。
2. 司会進行・議事録作成者の指名
 - ・司会進行に両副委員長、議事録作成者に事務局が指名された。

. 報告事項

1. 報告事項
 - (1) 第 6 回 理事会報告
事務局より事前配信した第 6 回理事会議事録の内容に沿って説明が行われ、以下補足をした。
 - ・審議事項「2023 年度日本代協事業計画の検討 (各代協・ブロックからの提言)」「日本代協アカデミーのコンテンツ充実計画案」「2023 年度『仲間づくり推進』入会目標ガイドライン案」「2022 年度仲間づくり推進キャンペーンの実施」「委員会委員の交代」につき審議が行われ承認された。
 - ・事業計画進捗状況について、地区担当理事・各委員会委員長より報告があった。

(2) 第3回全国会長懇談会報告

事務局より事前配信した第3回会長懇談会次第の内容に沿って説明が行われた。

大城委員長より、グループディスカッションについて下記補足があった。

- ・「今後のマーケットデザインを考える」というテーマで論議を行ったが、代協会長としてではなく、一代理店の店主としての意見交換を行った。
- ・共通して出た意見は、お客様に対して新しい取り組みやツール提供していかないと、これからは生き残っていけないということだった。
- ・事前に栗山アドバイザーのセミナーを視聴したが、そこでもプロダクトアウトではなくマーケットインしていくことが重要だと触れていたことが印象的だった。

栗山アドバイザーのセミナー動画と資料は日本代協ホームページの会員専用書庫にアップされている。

(3) 前回委員会の振り返り

前回の CSR 委員会論議内容、決定事項を議事録で確認した。

・審議事項

1. 各ブロック独自活動状況

事前に提出された活動チェックシート記載以外の独自活動について各ブロックから報告があった。

(九州南)

- ・宮崎市の危機管理課にぼうさい探検隊のマップ作成の相談をしたところアドバイザーを派遣いただき作成に至った。また、活動するにあたり TV 局や新聞社に声掛けし広報活動も積極的に行っている。来期は「防災を学ぶ」座学から始めるとのことである。
- ・保険会社から「防災フェスタ」の提案があったので、ぼうさい探検隊の説明を行い協力要請した。

(九州北)

- ・各県で献血活動が進んでいて、一日の活動ではなく月間で取り組み人を集めている。
- ・長崎では損保協会と共催して公開講座の開催を検討している。成功している県の情報あれば共有いただきたい。大分では児童館や児童クラブ中心に取り組んで子供たちからも喜ばれている。

(四国)

- ・損保協会と連携した防災フェスタで、地震保険普及・無保険車追放のリーフレットを配布した。
- ・防災減災の取り組みとしてサイバーセキュリティーセミナーを開催。
- ・黄旗の寄付を行う予定。
- ・香川大学で独自アプリを開発したので、ぼうさい探検隊で活用したい。

(西中国)

- ・「犯罪被害者の会」への協力を検討している。
- ・両県とも献血は積極的に行っている。

(東中国)

- ・3県合同の清掃活動を行ったときにフィットネスを取り入れて好評だった。
- ・岡山では、2月、8月を献血月間として献血バスの案内も行っている。

(阪神)

- ・和歌山県危機管理課主催の津波セミナーにおいて地震保険普及のチラシを配布。

(近畿)

- ・近畿・阪神ブロック合同で2月6日ぼうさい探検隊のセミナーを開催するので、参加していただきたい(兵庫での防災国体の取り組みも説明する)。

(北陸)

- ・昨年10月7日にブロックでハザードマップ勉強会を開催した。
- ・損保協会から公開講座共催の提案があり4月以降実施予定。
- ・各県とも出前講座を積極的に実施している。

(東海)

- ・三重県ではライオンズクラブと献血活動に関して提携し推進していく。また、12月末にラジオ出演してCSR活動と各保険会社のドラレコ紹介を行った。
- ・出前講座、ぼうさい探検隊について教育委員会と連携し、開催先、実施先を探している。

(東京)

- ・2月4日に献血活動を行う予定。
- ・2月8日に防災ハザードWEBセミナーを開催予定なので委員の皆さんも参加いただきたい。

(南関東)

- ・ハザードマップ、サイバーセミナーはここ数年で開催しているので、地震保険普及と併せての実施を検討中。
- ・山梨では、フードキャンペーンを他団体と連携し活動している。また、支部ごとに古切手収集を行い寄付している。

(東関東)

- ・現場に立つことを大事にする、というスタンスでチャリティーゴルフ、献血、交通遺児募金等の活動を行っている。
- ・ZOOMを使ったセミナーを開催するのであれば、各県代協連名で開催した方が効率的ではないかとの意見から、今後はブロック単位でのセミナー開催を検討している。
- ・TN社で「ぼうさい授業」を展開しており、親和性があるので授業の後にぼうさい探検隊を持ち込むことを検討している。

(上信越)

- ・長野県代協から提出したマップが、キッズリスクアドバイザー賞に選出されたことでブロック内では盛り上がった。ただ、全体的に提出が遅かったので、次年度は早期達成を共有した。
- ・新潟では弥彦神社で11月5日に開催される「菊祭り」にあわせて清掃活動を行い全員で黄色いジャンパー着用しアピールした。

(南東北)

- ・10月7日に3県合同で、サイバーセキュリティ、マイタイムライン・逃げキッド、ぼうさい探検隊の勉強会を一気に行った。

(北東北)

- ・ぼうさい探検隊のマップ提出0件だった秋田が今年は目標を達成することができて安堵している。次回は早めに動きだしたい。
- ・1月18日に損保協会と共同で「災害に乗じた悪質な業者対策」のセミナーを開催、秋田でも問題になっている。

(北海道)

- ・タオルボランティアを継続実施しており集計中。次回ブロック協議会で、ぼうさい探検隊の早期取組を徹底する。

2. ぼうさい探検隊の取組み(総括)

大城委員長からぼうさい探検隊取組みについて損保協会への御礼があった。

- ・今回たくさんの応募がある中、代協経由のリストを抽出し定期的に報告いただいたこと感謝申し上げます。
- ・特にタブレットを活用した人たちからは使い方、進め方の問い合わせをした際も丁寧に対応していただいたとの声が多く寄せられている。
- ・改めて子供たちにとってもこのコンテンツは良いものだ実感しており、CSR 委員会としても今後さらに力を入れ実効性のあるマップ作成を進めていきたいので、引き続き協力願いたい。

事務局より第 19 回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」の総括があった。

- ・全都道府県代協が目標とした団体数をクリアしたのは取組開始以来初めてであり、過去最高の団体数(210 団体)となった。改めて委員の皆様の努力に感謝します。
- ・コンクールでは、「キッズリスクアドバイザー賞」にみやだ探検隊(長野県代協)、「防災担当大臣賞」に蓮田安心探検隊(東京代協)が選出された。また、8 作品が佳作に選ばれた。
- ・参加した小学生には「ウエットティッシュ」を参加賞として贈呈した。

日本損害保険協会 業務企画部 啓発・教育グループ 水谷氏より CSR 委員会から提出した意見・要望についての回答があった。

- ・第 19 回ぼうさい探検隊マップコンクールの運営、募集につき代協の皆様には多大なるご支援いただき感謝申し上げます。マップコンクール総数では 410 団体 1,179 作品の応募があり 6,137 名の児童が参加し、いづれも昨年度を上回る実績となっているが代協経由の申し込み団体数が過半数を超えており代協の皆様のおかげでマップ作りのすそ野が広がったと感じている。佳作まで含めると 10 作品が入選しており、入賞作品については現地で表彰式を実施する予定である。今後ともマップコンクールへの支援・協力をお願いしたい。
- ・タブレットのアプリを手持ちのタブレットにダウンロードできないか。
これまでセキュリティーの関係で手つかずだったが、全国の小学校ではギガスクール構想で一人一台タブレットが配備されている状況なので積極的に検討を進めていきたい(次年度に関してはこれまでの運用となってしまう)。
- ・送付されてきたタブレットの段ボールに「ぼうさい探検隊」と明記されておらず開封するのに躊躇した。
ご意見もっともであり、発送先には対応を指示済である。
- ・マップ作成のデモ機を貸し出してほしい。
デモ機を大量に貸し出すことができないので、積極的に案内していないが申し出があれば対応している(9月10月の繁忙期は難しいが)。また、ホームページ上ではタブレットの操作説明動画をアップしているので参考にさせていただきたい。
- ・香川では地元の大学が防災用のアプリを開発しているが、このアプリを利用して応募することは可能か。
特に様式に定めはないので問題ない。例えばグーグルマップで作成したものでも受け付けている。
- ・ぼうさい探検隊の歌を作りたいが、いかがだろうか(20 回目の節目でもあるので)。
現時点では、広告宣伝として歌の作成は考えていないが今後の参考とさせていただきたい。独自の作成も控えていただきたい。
- ・応募時期について夏の道と冬の道で大きく危険度が変わるので今の時期からの応募でもいいのではないかと(事務局に問い合わせたところ、あいまいな回答だった)。
事務局の対応についてはお詫びします。小学校の授業では自走的に行っていただきたいという思いがあり、小学校のカリキュラムを作る時期に合わせて案内を作成していたが、応

募開始時期については決まっていないので情宣の仕方を考えたい。

- ・次年度の学校行事は1月か2月に決まるので、コンクールが終わった(締め切り)段階で次回募集の案内ができないのか。

文科省や小学校の教諭にヒアリングをしたところ、案内をするのは春先が良いという意見があったので3月下旬に案内をしている。小学校だと授業のカリキュラムを具体的に決めるのは新任の教師が3月に決めると聞いている。ただ、ご意見もっともであり早期に案内できるよう検討したい。

- ・アプリ導入を検討いただけるのであれば、応募できなくても簡単に説明できるアプリを開発いただけないか。

ギガスクール構想を展開しているがOSが3種類あって、それぞれに対応するアプリを作成するのに労力・費用がかかる。作るのであればそのまま応募できるものを作ろうという考えである。

大城委員長からマップコンクールで作成したマップを機会に危険個所が改善された和歌山県代協の事例紹介があった(損保協会のホームページにも他の事例がアップされている)。

3. 防災・減災の具体的取組

事務局から9/17、9/18「第8回防災推進国民大会」開催の案内があり、第3回CSR委員会(9/26予定)の日程変更(9/19)を検討し、防災国体には任意で参加できるようにする。

大城委員長から防災士資格について説明があった。

- ・日本防災士機構は我々が行っているCSR活動(特に防災・減災)と親和性が高い団体である。
- ・費用が掛かるが自治体によっては補助金制度があるので、次年度推進していこうと考えている。
- ・資格を取り、認証登録すると定期的に防災関連のニュースが送られてくるので活動の参考になっている。

参考として過去には「ゼロからの風」のDVDを配布したり、「いのちのメッセージ展」に参画したりもしていた。

4. 継続活動の効果的展開

三上委員から出前授業についての好取組事例発表があった。

- ・8月下旬から9月上旬に昨年実施した学校や比較的就職率が高い学校の学年主任に開催の依頼文と日本代協パンフレットを送っている(当初校長あてに送っていたがスルーされた)。
- ・開催2週間前に事前打ち合わせ(機材関連)を行っている。
- ・会場は体育館が多かったが、最近はコロナの関係で放送室から放映することもある。
- ・内容はYouTubeでドラレコの事故状況の視聴、事故時の対応、自動車保険、自転車保険(個人賠)、加害者の手記(「償いの日々」)を1時間程度で実施している。
- ・最後にアンケートと同時に粗品(ティッシュ等)を配布している。
- ・資料等興味ある方は富山県代協事務局に照会いただければ連携する。
- ・講師を増やすことが課題である。

各県での出前講座ツールをdirectにアップして4月の委員会までに集約し、開催に向けての参考とすることとした。

5. 2023年度取り組み課題について

大城委員長から次年度の取り組み課題(事業計画)について、2月の理事会で審議される旨報告があった。

・その他・閉会

1. 情報共有

事務局より下記情報共有があった。

- ・毎年発行している日本代協パンフレット「日本代協は、今こんな活動をしています！」に掲載する写真の提供をお願いしたい(特に昨年、一昨年掲載されていない代協の活動写真を優先)。
- ・損保協会と連携した「災害に便乗した悪質な業者対策」として、台風 14 号・15 号で災害救助法適用地域となった代協で契約者への注意喚起メールを展開、日本代協ホームページ・日本代協アカデミー(募集人教育支援サイト)に損保協会が作成した「悪質な住宅修理業者特設サイト」のリンクを貼り付けているので、皆様のホームページでも周知していただきたい。今後は、各代協・ブロックでの行事にも損保協会支部から情報提供があると思うので協力をお願いします。
- ・広報委員会で作成した PR 動画が配信されているので、活用願いたい。

2. 本日の到達点の確認、次回以降日程確認

- ・事務局より、本日の決定事項を再度確認した。

3. 横山副会長所感

- ・長時間にわたる会議、熱い討議、ご意見、発表、たいへんお疲れ様でした。委員の皆さまには日ごろから多大なるご尽力賜り心から御礼申し上げる。
- ・年改まり、こうして皆さまの元気な姿を拝見すると年末年始にはしっかり充電された様子で、代協活動に向けて大変心強いものを感じうれしく思っている。
- ・日ごろから direct を通じて皆さまの活動状況を共有させていただき、月を追うごとに情報量が増え、連携も密になってきたのではないだろうか。本業で大変忙しい中、日本代協の諸活動、特に当委員会の活動にお力添えをいただいていること肌で感じている。
- ・昨年 8 月 29 日に開催した全国一斉 Zoom ミーティングから早いもので 5 か月が過ぎようとしている。年度末まで 2 か月余りに迫っており、CSR 委員会の今年度の総仕上げの時期に来ている。
- ・本日の会議でも共有した「ぼうさい探検隊マップコンクール」では、全国からの 410 団体のうち代協経由が 210 団体と半数以上の応募があり、過去最高の応募団体数であった。提出されたマップ数も 324 マップと 2019 年度以来、3 年ぶりに 300 マップを超えることができた。
- ・特筆すべきは、なんとといっても全 47 都道府県代協が提出団体数の目標を達成したことであり、この取組を開始して以来、初の快挙とあって今期の CSR 委員会メンバー並びに各都道府県代協の関係者の皆さんとともにこの成果を喜びたいと思う。これは、皆様のご尽力による結果として、大いに胸を張っていただきたいと思う。
- ・新型コロナウイルスの影響で表彰式の開催は見送られたが、入賞 22 作品が今月、日本損害保険協会のホームページで公表されるとのことであり、ぜひ参考にして来年度の取組のさらなる活性化、防災への意識高揚に活かしていきましょう。
- ・本日は、ぼうさい探検隊に関する要望・質問事項を取りまとめて、損保協会の水谷氏から回答をいただきましたが同梱されたタブレットの取り扱いについての要望は、DX 推進の過渡期の傾向なのではないだろうか。利用者の声は、さらに進化するためのヒントにもなるので、中身を検証し、次に活かしていくことが肝要である。また、テーマソングの作成という発想もなかなかアイデアだと思う。ちょっとしたきっかけが大きな風を巻き起こすこともあるので、こうした流れを CSR 委員会では大切にしていきたいものである。
- ・小学生の防災意識を高めるばかりでなく、全国規模の防災イベントとして開催されている「防災推進国民大会」の今年の日程が 9 月 17 日、18 日に決定した情報も共有されました。コロナ禍にあって一時期、防災士の資格試験も例年通りに進まないこともあったようですが、防災士養成研修講座を受講する人がコロナ禍の影響もあって減少しているということは憂慮すべき事態だと感じた。昨年 1 月の NHK ニュースを direct にアップするので確認していただきたい。
- ・自然災害と隣り合わせで生活をする日本列島に住む以上、防災のエキスパートを一人でも多く育成することは保険人としての使命と心得て、代協という組織の力でこの件にも前のめりで取組むことも必要であろう。
- ・毎回申し上げているように、CSR 委員会の各委員は次にあげる 3 つの柱を念頭に置いて活動していただいているとも思う。一つは、防災・減災の具体的取組の検討・推進、二つ目は、

継続活動の情宣効果向上に向けた検討、そして三つ目は、「ぼうさい探検隊」の積極推進、である。

- ・3日前の1月17日は、発生から28年が経過した阪神・淡路大震災の犠牲者を追悼する集会在被災地を中心に開催された。また、2か月後には3・11東日本大震災から12年を迎えるその日がやってくる。さまざまな追悼番組と併せて、テレビ、ラジオ、新聞などのメディアも大震災への備えについて視聴者、読者の喚起を高めている。一番怖いのは災害に見舞われたときの恐怖、不安、困難、苦痛といったものが風化してしまうことではないだろうか。風化は新たな大災害を引き起こすかもしれない。
- ・私たち、保険に携わる一員として防災・減災・縮災、そして、防犯に対して地域との連携を継続していくことが使命である。一人の力では限界があるが全47都道府県代協の英知を結集して、この取組を推進していくために、ここに集う日本代協CSR委員会の皆さんの積極的な活動を大いに期待している。
- ・本日は大変お疲れ様でした。

以上

次回開催日

第1回 CSR 委員会	2023年4月20日(木)	13:30~17:00	
第2回 CSR 委員会	2023年6月23日(金)	13:30~17:00	予定
第3回 CSR 委員会	2023年9月19日(火)	13:30~17:00	予定
第4回 CSR 委員会	2024年1月19日(金)	13:30~17:00	予定